

軽米町百人委員会平成 28 年度第 2 回高齢者いきいき部会議事録

○開催日時：平成 28 年 9 月 4 日（日）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

○開催場所：軽米町役場庁舎 2 階会議室

○出席者

委員：18 人中 9 人出席（松谷タケ、田頭トヨ子、中舘ミヤ、浅水かつ子、菅原皓文、千葉エイ子、板橋義男、野中元榮、君成田美代子）

事務局：町民生活課 中野 福田

総務課 日山 輪達

○開会

（町民生活課長）

○部会長あいさつ

（部会長）今日は主に 3 つの議題があるようです。第 1 回目は 4 月 27 日の夕方やったわけですが、その時にはテーマの決定をするということで、提言まで持っていくためのテーマを決定ということでお話し合いいただきまして、その結果（1）の高齢者の中からいかにリーダーを育成するかということに最終的にはなったということです。今日はこのことについて皆様方にご議論いただきたいと思っておりますが、何しろ 18 分の 9 です、半分しか集まってませんから。最初はもう少し集まったような気がしたんですが、その後さっぱり集まる方が少なくなってきたりなどちょっと心配なんですけれども、今日は今年第 2 回目ということでお話し合いをしていただきたいなと思います。前回は、グループワークにしましょうか、それとも今までと同様全体で協議するかということだったんですが、この人数だとグループワークも何もない。みんなでお話し合いをしていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

○議事

（部会長）まず（3）かるまい交流駅建設検討委員会の委員の推薦について、先にこのことを決定していただいてから（1）の方に入っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

（委員）はい。

（部会長）それではどのように決めればよろしいでしょうか。ご提案をお願いしたいんですが、この中から 1 人ですか。

(総務課長) 検討委員会についてご存知の方はご存知だと思うんですが、まちなかにかるまい交流駅という施設を作りたいということで、今検討を進めているんですけども、それをどういうふうな施設にしていっていいかというのを委員の方からご意見をいただきながら進めていきたいということでございます。百人委員会は5部会あるんですけども、5部会の部会から各1名ずつお願いしたいということでございます。

(部会長) 各1名ずつということだそうです。ここから決めればいいわけですね。

(総務課長) ここから1名出していただければいいと思います。

(部会長) どなたか皆さん方からご意見出していただければありがたいなと思います。

(委員1) 会長さんに決まってるんじゃないの。

(総務課長) 実は部会長さんっていう話になるところが多いのかなとは思ったんですが、そういうふうな施設について、例えば子育てしやすいようなスペースが欲しいだとか、例えばここであれば、高齢者の方が使いやすい施設はこういうふうな施設だよというのを積極的にご発言いただける方がいいのかなと思ってます。ですから部会長さんに何でもかんでもということではないのかなと思いますけれども。

(委員1) でも地元でもあるし、だいたいいろんなことがわかりやすいかなと。

(部会長) どなたか適任者がございませんか。

(総務課長) もしかするとですね、それぞれの団体にも推薦依頼がいつてるんです。いつてないですか、食会さんとか。

(部会長) 各部会から1人ずつで5人なんですけど、その他の組織からも。

(総務課長) その他の組織からも出ます。20人ぐらいを予定してましたから。

(部会長) 比較的斬新な意見を持った方がいいと思いますけども、70数馬力になるともうね。

(委員2) これからの軽米町だからあんまり年寄りでない、これからの人の方が私はいいと思います。

(委員1) じゃあこの中から一番若い人、副部会長さん。

(副部会長) 私は、軽米の中心部からはけっこう入ってくるのかなと思ったりもしたんですね。逆に別な地区からいろんな方が入ってくればいいかなと思っただけです。いろんな地区の方が集まってるいろんな視点で話されるのもいいのかなと。

(部会長) という意見が出てます。くじ引きというわけにはいきませんので。

(町民生活課長) 今日は出席者が半分ということでなかなかゆるくない。

(委員2) 副部会長さんはどうですか、若いし。

(副部長) 子育ての方からは若い人が来るんじゃないですか。

(委員3) 育てた経験者として、いいんじゃないですか。

(部長) 副部長という話がありますが、皆さんいかがですか。

(委員) いいと思います。

(部長) いいのではないのでしょうか。子育てのことも関係してるし、私たちよりもずっと若いんだから。そういうことでお願いしたいと思いますが、よろしいですね。ではひとつよろしくお願いします。ということで(3)は決まりましたので、今日の本題である「高齢者の中からいかにリーダーを育成するか」ということについて、皆様方からご意見をいただいていたなとそのように思います。大変難しいと思うんですよね。前は、さまざま話が出た中で結果的にこのテーマになったということは、やっぱり高齢者の中でもリーダーを必要としているということ、誰かを頼っていかなきゃいけないよということですので、どのようにしてやっていったらいいかというのを、ざっくばらんでいいですから出していただければありがたいなと思います。まず一番最初に、リーダーとは具体的にどんな人のことか、まず最初にそれを考えたいなと思うんですが。

(委員2) 高齢者のリーダーでなく一般的なリーダーなわけですね。

(部長) 高齢者の中からということです。

(委員2) 高齢者の中から、高齢者に対してのリーダーですか。

(部長) ええ。さっき言ったようにリーダーって何かなということを考えていただきたいと思います。リーダーって今必要なリーダーもあるし、将来頼りたいようなリーダー、将来というか近い目標、先の目標、そういうふうなのがあると思うんですよね。言ってみれば後継者みたいな、これからリーダーになってもらいたいのはどんな人だろうかということ、私たちが考えて育てていかなければならない。そういう視点も持った方がいいのかなと。どうですか、リーダーとは何ぞやと、それがわからないとリーダーをどう育てるかと言ったって、なかなか大変じゃないのかなと思うんですけど。

(委員1) 野球で言えば監督だよ。

(部長) 引っ張っていける人。

(副部長) まとめる力のある人。

(部長) 辞典で調べればなんて出てくるんだろうね。指導者とか出てくるんですかね、たぶん。ただ指導者となるとちょっとね。

(委員1) 経験豊富な人と言ったって誰も初めてで。

(委員2) 何かテーマがあってそれについて引っ張っていくというならわかるけど、おおざっぱなこととなると…。

(部会長) 私が出したのはかえって難しかったかな。なんとなく皆さんはリーダーというのはイメージしてると思うんですよね。人の先に立って話をまとめていって引っ張ってくれる人、さっきはそういった話もありました。それから何事にも率先してやってくれる人。あとはやっぱり、なんと言うんでしょうかね、自分は表には出なくても、人が活躍するのをお膳立てして、よかったなどそういう目で見れる人。なんでもかんでも俺が俺がというのがリーダーじゃないと思うんですよ。

(委員1) 陰の力を持った人。

(部会長) ええ、俺が俺がというのも確かにリーダーですけどね。

(委員2) やっぱり応援してくれる人がないとね。独り相撲を取ってれば。

(委員3) 歳をとってくると、腕に自信があるというか何かに長けているという人が、いろんな方面に長けてる人、全部じゃなくそういう方たちをまず、この人はこっちの方が得意だからとかそういう感じで、全部持った人というのはなかなかいないと思いますので、こういう方面にはこの人が優れてるとかこっちの方が得意だとか、そういう方たちを集めてやってもいいんじゃないですか。

(部会長) 1つの道に長けている人、そういう感じですよ。何か技術的なものを持っている、その道に長けている人。

(委員2) 何かを1つでも実践してみればいいと思います。いつも実践までいかないで、あれがいいこれがいいってやる度その問題ばかり出てさっぱり実践までいかない。やっぱり目標を立てて、そういう人でも選んでまずやってみたら1つでも結果が出るのではないかなと思います。

(部会長) ある程度こういうことをしましょうという目標を立てたならば、それに向かって実践に導く人、という感じですね。

(委員2) はい。話で終わらないように1つでもやってみたら。

(部会長) だいたいイメージが出てきたでしょうか。すべてを備えた人ではない、その道に長けた人、卓越した技能を持った人でもいいでしょうし、そういったことも条件だろうなど。すべてに長じた人ってないんでしょうけど、なかなかほんわりとした人格で、さまざまなことに能力を発揮できる人はもちろん理想だとは思いますが。そんなところでよろしいですか。あとまた何かこういう人がリーダーと言えるのかなということがあったらお願いしたいんですが。今出てきたのはだいたいおおざっぱにはわかりましたよね。何かに長けていて目標を立てて実践に導く人、要するに、まとめて引っ張っていける指導力のある人、そういう人がリーダーだ。じゃあそういう人を育てるにはどうしたらいいかということになります。そんな立派な人を私たちに育てられるでしょうか。これは理想ですよ。でも私

たちによるリーダーというのは、簡単に言えば、まず身近なグループの中で1つの目標に向かって引っ張っていける人ぐらいでいいんじゃないでしょうか。1つのグループというのは何か目標があると思うんです。その目標に向かって引っ張っていける人。

(委員1) なんとなくリーダー育成って言えば後期高齢者に合わないような感じ。これからのリーダー育成って言えば若者のような感じがするけども。

(部会長) だから簡単に言えば、ここにいる人たちは高齢者の中のリーダーだと思いますよ、正直言って。やっぱりリーダーだろうなど。そういう自覚を持って、自分たちが置かれた立場でそこで花を咲かせていただいて皆さんを引っ張っていく。そういったことをやっていけばいいのかなと。ですから、リーダーを育てるといのはすごく難しいけども、私は将来的に、私たちの下の世代をどのようにして育てていくかというのが一番大切なような気がするんですけどね。そうすると、高齢者の中からいかに…というところからちょっと外れますけども、すいません私だけ喋って。

(委員4) 私は昭和の真ん中へんなんだけど、いろんな年代の人たちの中で働いていると、年代によって考え方みたいなのが違ってきていると思うんです。もう10歳違えば全然違うような気がして、やっぱりその時代差っていうのかな、育った環境によるものなんだか、あまり高齢者が出てくると若い人たちが引っ込むと言え失礼だけど、出れないんだろうなと思ったり。今いるところは利用者さんが高齢者で、働いている人たちは私よりはずっと若い人たち、22、23～50、60までの人たちの中で力を出してまとめるというのは、非常に…なんというのかな、育った環境なのか時代なのかっていうあたりも踏まえてやらないと、自分がのけ者にされてしまうのかなと。自分は認知症なのだから、認知症とはどういうものを勉強してる私だっというのとはしてるんだけど、若い人たちにすると孫みたいな人たちだから、どういうふうに調和させたらいいのか非常に難しいです。自分のやりたいことをやるのは自分の歴史の中で引っ張っていけるけど、次の人を育てるといったときに、同じ感覚でものを考えるっていうのとちょっと違う人たちをどうするかというのが難しいのかなと感じているところです。

(部会長) 時代差、年齢差ですね。年代によって考え方が違うんじゃないのかなと。同じ感覚で考えることが不可能だとすれば、年代によってかなりリーダーも違ってくるような気もするし。

(委員1) 10歳も違えば全然違う、5つ違っても違うから。だからやっぱり私たちが若いときは、70になったらこうなるのかな、80になったらこれぐらい動けてこんなこと喋るのかなと思っても、それはあくまでもその年代に達して初めてわかることであって、その年代まで達しないとわからない

いと思いますよ。

(部会長) 年代差というのはやっぱり現前とあるんだなと思いますよね。私も感じるんですけども、町内会で集まるわけですが、だいたい60数馬力から70数馬力しか集まってこないんですよ。若い人たちはほとんど来ないんですよ。なぜかというとなんか段差があると思います。すごくね、別の目で見てるんですよ、正直言って。別の会合にはその若い人たちが集まってくるんですよ。町内会というのにはなかなか集まってこない。われわれがリーダーシップを取っていると同じようなのしか出てこないなど。若い人に渡したいんですけどもなかなかそうはいっていない。年代差というのはすごく大きいと思いますね。だって1つとってもパソコンの扱いだって全然違うでしょ、私たちは。だいたい私たちはガラケーの方だけど今はこうでしょ。とってもついていけません、私たちは。

(委員1) 後期高齢者のリーダーっていうより、あまりリーダーに頭を置かないで、高齢者としてどう町に関わるか、またどう高齢者の人たちがその時代を楽しむか、そのへんにピントを合わせた方が…。リーダー育成なんていうのは本当に高齢者としてリーダーと言えはなんとなく、私たちよりも若い方たちがいっぱいいるからそれは当てはまるかもしれないけども、私たちみたいに75にもなれば本当のそのリーダーというよりも、いかにその時代を楽しんでそれを下の人たちに見せていくか、示していくか、そういう高齢者としての生き方を示していった方がいいのかなと思うような気がしますけど。

(部会長) なるほどなって今聞きました。高齢者としての生き方、高齢者は高齢者なりに軽米の町とどう関わっていくのか、そしてどんどん進んでいる時代にどのようにマッチして対応しているんだろうか、それをうまくやっていけば…

(委員1) 次の世代もおじいちゃんおばあちゃんを見てこうすればいいんだなというのが少しずつ染みしてくるんじゃないのかなと思ったり。

(部会長) そしてまた、20、30の若い人たちから見ていい高齢者だなと思われるようなそういう生き方ということになるのでしょうかね。

(副部会長) そっちの方がいいと思います。

(委員1) 私たちよりも若い年代だと当てはまると思うけど、私たちの年代だとリーダー育成というのはなんとなく合わないような感じがしたり。

(部会長) ですよ。

(委員2) そういう考え方で持ってかないと、昨日も協力隊の方で集まったんですけど、私たちは母から受け継いで嫁に受け継いで、その下がもう集まらないんです。だから各部落で組織がなくなってくるんですよ。婦人会も

うちの方でももうやめました。結局だから協力金がなくなってくるんですよ。どうして消防演習に何人出るのについていうふうに隊長さんが苦勞するでしょ。なんていうか、私たちのときは出なきゃなんないっていう覚悟で入って、親から代々受け継いだものを今まで守ってきたわけですよ。今嫁から次の段階にいったら人もいませんしね、だから消防演習に出るにも四苦八苦して、だからどんどん減っていくでしょ、協力隊の団体も。だからすべてがそういうふうになって、各部落で組織的なまとまりが…。

(委員1) 私たちの時代は戦争もあつたり食べることができなかつたり、なんでも配給になつたり本当に隣り同士みんな助け合つたんだよ。今はすべて金さえあれば手が届くところになんでもあるから、考え方が全然変わってきてると思う。

(委員2) 自分で運転してどこまでも女の人でも行けるし。だから(委員1)が言ったように、高齢者がどのようにして楽しんで生きられるかというのを高齢者部会で進めていった方が。

(委員1) 震災に遭つた大槌の高校生が、今まで当たり前であつたことが当たり前でなくなった、そういうものを経験した人だとやっぱりいろんな気持ちが変わって、助け合わなきゃならない、人のために尽くさなきゃならないというのは身に染みて、ああいうふうな震災に遭つた高校生が、そういうふうな経験があつてこそ、いろんなことをやらなきゃならないと思うんだけど、本当にこの裕福な時代でこれは無理だと思う。だから私たちは年を取つたらこういうふうなことをして、町のためであれ年の取り方というかね、それを示していくのが私たちの立場じゃないかなと思う。こういうふうな年の取り方をするんだよというようなのを、いちいち口で言わなくても態度で示していくのが今私たちの集まりの高齢者がそういうふうにするればいいのかなと思う。

(部会長) はい、なんかリーダーを育成という前にいろんな問題があると思うんですが、この歳になってリーダーというのはなかなか作っていくのは大変だけど、とにかく時代にどのようにマッチしていくのか、そういった生き方を我々がどうやってやっていくか、それをやることによって町の活性化につながっていくということになるんじゃないかなと思って聞いてましたけど。ほかの方々どのように思いますか、今の話を聞きながら。

(委員5) 何かをしようとしたときに誰かがリーダーシップを取らなきゃならないでしょ。それがなかったら次に進めないから前回リーダーつていう話になつたんだけど、どうすればいいのかな。

(委員1) リーダーを決めて次の段階なのか。

(委員5) リーダーというか先立ちというか、そういう研修会をやりながら育

てていくしかない。だって誰かに先立ってもらわなかったらね。まあ個々にいい年の取り方をというやり方もあるだろうけど。高齢者いきいき部会として話し合うには、銘々頑張ろうという話にはならないんじゃないか。

(委員1) それはそうだ。

(部会長) そうすると本当にこのリーダーをどのようにして育てていくか、先立ちというふうに考えてもいいかもしれませんが。リーダーっていうと非常に難しいですよ。要するに、率先してやっていけるような人、それぞれの地区で。全体でやろうというのは無理だから、私はそのリーダーというのは本当に小さな組織、そういったところから出てくるものだと思うんですよ。そういう小さなところで、この人は役に立つなと思う人をみんなで崇め奉ると言ったら変だけども、頼りにしてるような雰囲気を出しながら率先してやってもらうようなそういうことにしていかなきゃなんないのではないかなと。ただ、あいつは好きでやってるんだというふうに対応する人がけっこういるんですよ。あいつはなんにでも顔を出して好きだからやってんだ、やらせておけというように喋る人がけっこういるんですよ。

(委員5) それをやっぱりなくすためには研修会みたいなのをしないとね。考え方を少し変えてもらわないと。今部会長さんが言ったように、そういう人はけっこういると思う。それを変えていかないとだめですね。

(部会長) だめですよ。

(委員1) おらも言われてるよ、あの人のくらい歩くのはないって。そのとおりだと思ってるから肝も焼けない。昔から言われてるから。まあ本当にそのとおりだと思うからまずいいけども。

(総務課長) 1ついいですか。まちづくりとか町全体の若者も含めたリーダーを高齢者の方が育てるというのは、はっきり言って皆さんおっしゃっているとおりかなり難しいことだし、お年寄りの人たちが言うことに対して、お前リーダーやれと喋れば、若い人たちは若い人たちでまた反発もあるのかなと思います。ここで言うリーダーっていうのはですね、お年寄りがいきいきしていくための暮らし方を探すリーダーという考え方でいいんじゃないでしょうか。だから若い人たちとかなんとかっていうんじゃなくて、今それこそパークゴルフだとか、まあパークゴルフやってる人はお年寄りばかりじゃないと思うんですけども、それぞれ生きがいを持って活動をやっている方がいらっしゃるので、何を高齢者の方々ができるのかを考えていって、そのリーダーを作るというかみんなで協力して育てていくという考え方でいいのかなと今皆さんのお話を聞いていて思いました。難しいと思うんですよ。さっき言ったとおり、あいつは好きだからやってるんだ

というような方も当然いらっしゃるし、高齢者の方々がいきいきするためのリーダーを作るための研修会でもなんでも。実はこれは来年度の予算編成に反映させていくために部会の皆さんからご意見を伺ってるところもあるので、こういうことをやればもう少し良くなるんじゃないかというようなことを考えていただいてもいいのかなと思います。だから具体的にこれをやればいいんじゃないかというご意見でも、その方が出しやすいんじゃないかなと思いますけども。

(部会長) かなり具体的な話が出てきました。私たちが生きがいを持って、あるいは生きがいを探していけるような環境づくりというんですか、そんなところに目を向けていければ。研修を深めるということも必要だと思いますので、先ほど(委員5)がおっしゃいましたけども、研修会が必要でないかと言われましたけどね、みんなで意識を変えるようなそういった研修会、今日の舌校長さんのお話にもそういったことが出てくるのかもしれないけど。どうでしょうかみなさん、それぞれ自分のふと思ったことでいいですからお話していただければ。

(総務課長) 例えば言えば、今も(委員1)は郷土料理とかそういうのの集まりを持って、郷土料理を伝えていこうという活動をやってますよね。今こういうふうな活動があって、将来的にはどうすれば継承していけるのかとかっていうのを考えてもいいと思いますし、地域地域で高齢者の方が集合集落の中でどういうふうな役割を担えばいいのかっていうのを研修してもいいのかなって思ったりします。たしかそういうふうなことをやってる所もあったような気がするんですよ、全国的に見れば。

(委員1) 三戸かどこかで、今日はカレーを食べる日とかうどんを食べる日とか、一斉に町内でそう決めてるところもあったような。

(総務課長) ありますね。町の特産品なりを軽米町中で、軽米では今そういう取り組みはやってないんだけど、学校給食では子どもたちが雑穀とかなんとか給食で出るから食べてるんですが、一般の大人の人たちって食べてる人は食べてるかもしれないけども、食べてない人は食べてないとかですね。

(委員1) だからよく、軽米でどこに行ったら雑穀料理を食べられるかというのを聞かれる。軽米の食堂で雑穀に取り組んでる所ってないでしょ、あんまり。だから教えようがない。どこでもやってないから雑穀を使った料理とかって。

(部会長) 何かの活動に取り組んでいるそういった団体がけっこうあるわけでしょ、軽米に。そういったところでそれを推進している人たちは、正直言ってリーダーなんですよ。ただ、自覚してるかどうかは別として。そう

いった人たちがリーダーだと。それを育てるといことになりますと、さまざま組織を立ち上げるって言えばあれだけど、趣味を持った人たちが集まって、そこで要するに、今の時代を楽しむための何か活動をする、そういったのを推進していく人、そういったのがリーダーというふうに考えていければどうなのかなと。身近なところで身近な私たちの楽しみを探しながら、それを実践して進めていけるような人。

(委員1) 例えば、今日は半分しか来てないけども、その人数の中から3人なら3人決めて、じゃあこういうふうなことで高齢者としてやっていきましようかと、リーダーというのは1人かもしれないけども、3人くらいでこういうふうなのでやっていきましようとかって話し合えるリーダー3人くらいを選べば。1人だけじゃどうすればいいのか誰に相談すればいいのかわからないから、3人か何人くらいで集まる日をもって、こういうふうなので皆さんと集まりをもっていきましようとか、そういうふうなやり方がいいのかなと。

(部会長) リーダーってこう考えてみるとさまざまあると思うんですね。

(委員1) リーダーっていえば、なんでもかんでも自分で背負わなきゃならないというのがなんとなく…

(委員5) お年寄りも、何か必要とされてるようなことがあればいきいきしてるんじゃないかなという気がしているんだけど。円子である活動の中でお年寄りを3人頼んだ。何を頼んだかという、縄を縛って草履を作ることだったんだけど、今60になった人はあんまりできない。その頼んだお年寄りは、9時からやってもらうからと言っても7時半ごろから来て、張り切って一生懸命喋ってみんなに教えてくれて。だから期待されるということがすごくいいから、何かさまざま企画をしてそこの地区、あるいは軽米町全体でもいいんだけど、そういう人たちが活躍する場を作ってあげたら、いきいきしてきて健康にもなるんじゃないのかなという気がする。そういうのをやっていくのに必要なリーダーというか先立ちとか、そういうのをどうやって何年か見つけていくのか、各地区から選出すればいいのか、あるいは我々がそれをやればいいのか、この部会が案を示せばいいのか、だという気がするんだけど。

(部会長) 今の話、皆さんわかったと思うんですけどね、期待されている、必要とされている、俺は人のために役に立ってるんだなど、そう思ったときいきいきとしてくる、そういうことですよ。そうするとみんな輝いてくると思うんですけどね、そういった人たちは。そういった人たちをどこかに集めて活躍する場を、という話も出たんですけどもこれもなかなか、どういう所にどうい人があるのか把握できませんからね。〇〇名人、あの

- 人はこういうことについては長けている、この人はこういうことについて長けているということ、人物像を軽米町全体で引き出してみるという。
- (委員5) そういう人が先生になってクラブみたいなのを立ち上げてもいいと思うし。
- (副部長) 生涯学習…あそこにはありますよね一覧になって、なんとかに長けている人みたいなのが。前に見たことがあるような気がするんですが、何かをそこで学びたいときは声かけてくださいっていう、なんか一覧になって、ほうきを作る人は誰々さん、縄を縛う人は誰々さんという名簿が昔あったような気がしたんですが。
- (部長) それをいかに活用するかですよ、問題は活用。
- (委員6) 行事を組んであげて立ち上げればいいかもしれない。
- (副部長) 今日はその教える会があるよってなれば、興味のある人が行っとか。ただ名前だけあってもね。なんかそれが十分に活用されていないのかな。
- (委員6) 誰々について言ってもできないので、もしかしたら企画してあげれば。
- (委員5) さまざまな名人を作っていけばいいかもしれない。
- (部長) さっき副部長さんがおっしゃった話を聞いて、そういったのをどっかで見たなど。見たんだけど、じゃあそれがいかに活用されてるかという、そこがないですもんね。拾って作りましたよ、じゃあ皆さん好きな人たちはどうぞ利用してください、ではうまくいきませんので。だから例えば、縄縛いの名人とかほうきを作る名人とかがいたとすれば、何月何日にこういうことをしたいので興味のある方は集まってくださいとやって3人でも5人でも来れば、その方にとっては、俺は必要とされてるんだと生きがいにもなれる。そういった場を作ってやるというのが私たちの役なのか、行政の役なのか。1つ具体的なのが出てきました。
- (委員5) そういう活動とリーダー研修みたいなのを重ねていけば、そういう活動の中からリーダー的に誰か育っていくんじゃないか。
- (部長) そして研修に来た人の中から後継者が出てくると思うんですよ。そういうことが必要なんだよね。その人だけでストップしてはだめなんだよね。例えば、山田の獅子踊りとかあったでしょ。民田山はもうなくなったけど、ああいうのすごくもったいないと思うんですよ。後継者があつたらなんとかなれたのにな。その部落だけでやろうとしたってできなくなってる。だからそれをもっと町全体に広げていければ、そういうふうと思うんですよ。そのうち指導できる人がいなくなってしまうわけですよ。そうすると消滅してしまう。今がラストチャンスなような気がする、山田の獅子踊りに関してはね。だからそれと同じようにさまざまな技術を持った人

が、その人が亡くなったら終わりだということじゃなくて、それをつなげていけるようなそういったのをやっていければ、高齢者もいきいきとしていくんじゃないのかな。

(委員5) 軽米に伝わる昔話をまとめていたら、同じ円子の中でももうほとんどわからなくなってきた、一つの話が三様か四様になっている。あやふやだから付け加えたりなんかして喋ってね。でも聞いておかないと次に伝えられないことになるから、でもそういうのもやっぱりお年寄りの役目ですからね。だからそういう人から聞かなきゃならなくなる。何回もお会いして話を聞き取る。そうすればやっぱり喜んで来てくれますもんね。やっぱり必要としてあげるやり方を探さなきゃだめですね。

(部会長) 地元で伝わった昔話もだんだんなくなっていってますしね。かなりこう具体的になってきました。

(委員1) そういった昔話を各地区から集めてちょっとした1冊の本とかでできるようにすれば。

(副部会長) それを作ったんです、保育園の先生たちが。というのは、ずっとそういう活動をしましょうと言って、笹渡にいる人は笹渡のお年寄り、円子児童館にいる人は円子、みんな保存してたのがそのままに、だからそれを再発掘して行って1冊の本にしたんです。そしてそれを生涯学習で発表し合おうということ、軽米保育園でやったんですよ、何年か。ところがいなくなってしまった、みんな他の施設とかどっかに行ったり退職したりして。そしたら自然消滅してもったいなかったなと思っていたんですけど、そういうのも各地区にあるっていうのはなんとなく聞いたことがあるというのは、皆さんちょこっとは知ってるかもしれないですけど。

(委員5) 本が残ってるっけね。

(副部会長) それに目をつけた他の人がこの本をコピーしてちょうだいという人がいて、軽米にこんなものがあるんですかって言うから、遠野とだいたい似てるんですよ、風土が。だから遠野にも昔話があるけど、軽米にもけっこうたくさん昔話があったので、あるにはあるんです、まとめたのが。

(委員5) あってもね、もう知らなくなってる。

(部会長) それを喋って映像化しておく、そういうのが大切だと思うんですよ。

(副部会長) 軽米弁でまとめましたので。

(委員1) 方言って軽米弁っていうかね、まちなかと私たち山内の方の言葉もまた違ったからね。そういう言葉を1冊にしたのがあるって聞いたような気がするけども。

(副部会長) それもあると思いますよ。

(部会長) 軽米の方言が書いたのありますよね。このくらいの冊子もあったし軽米町史なんかにもついてます。ちょっとした昔話なんかも軽米町史に載ってます。ただ活字ですからね。あれを言葉にしてやると面白くなってくると思うんだけどね。

(委員1) 昔の言葉を使って劇でもできればいいんだけどね。

(部会長) そういうことをやれる人がいれば、そういう人をお願いをしておけばその人もいきいきとしてやってくれるんじゃないかな。私も頼りにされてるんだ、みんなから認められるというのはそういった気持ちになってもらえればいいのか。今昔話の話も出ました。なんか名人の話からいろいろ出てきましたけれども。1つの技術を持った人をみんな拾ってその方々を活用していく。それが高齢者にとってはすごくいいことかなということが今出てきました。

(委員2) 高齢者しかそれはできませんからね。

(部会長) そうですね、若い人にはとても無理ですから。それを伝えていくというのも大切な役割ですよ。

(委員5) 必ず高齢者になるからな。

(委員2) 昔だとずっとその家に住んでたでしょ、昔からその家に。各地区に旦那様がいたわけです。そういうのが全然なくなってきた。個人的な話ですけど、うちの区長さんが、総会も大事だけでも沢里がどのようにしてできたか、生まれた時からここで育った人はあなたしかいないからまとめてみてくれないかと言って、私が年寄りたちから聞いて昔は何軒あって、今あちこちから集まってきてこういう世帯になったというのをまとめて、総会に報告というか書いて皆さんに知らせたんです。今どんどんお嫁さんも地方から入ってきて、子どもたちは出て行って、昔はここにこういうのがあってこういうのをやってたというのを知ってる人がだんだん部落にもいなくなりますから、そういうのも各地区でたまには作っておいた方がいいと思います。

(部会長) そうですね。その地区にはその地区なりの歴史と文化がありますからね。

(委員2) その土地に生まれてその学校を終わって、80、90までここに住んでる人がだんだんなくなるというか、なんでもパソコンだったりいろいろ発達というか、我々ができないことがどんどん出てきますから。若い人たちはやっぱりそっちに向いていきますから、そういうのも…

(部会長) そうなってくると、地域地域の特性がなくなって面白くなくなるんですよ。

(委員5) 屋号はなくなるし、屋号の由来もわからなくなるし。

- (部会長) そういえば屋号なんてなくなりましたね。
- (委員5) うちの方に「まがと」というのがあるが、あれはまがとさんという名字の人がいた。そこはまがと屋敷だそうだ。
- (委員3) 私は曲がり角の所にあるからだと思っていた。
- (委員5) だからそういう由来も、お年寄りが調べて伝えていく必要があるということですよね。そういうのをやればいきいきだと思う。
- (部会長) 高齢者の知識を引き出すか、記憶を。高齢者の昔の知識、記憶を引き出すというね。
- (委員2) 町内全体でなくても、皆さんが住んでいる土地のことを伝えてもらえば。
- (委員5) そうそう、自分の知ってる範囲というかね、広域じゃなくたって。
- (部会長) それが本当に大切な軽米の文化を伝えることにつながるかもしれないね。高齢者の役割、高齢者しかできない。
- (委員4) 食べ物の歴史もありますよね。そういうのも知りたい、郷土料理の。
- (部会長) 郷土食ね。
- (委員1) どんなことをしたら若者、例えば息子や孫たちに、捨てたもんじゃないなおばあちゃんもおじいちゃんも思ったりね。
- (委員2) 例えば赤飯1つにしたって、今は自由にできるけども私たちが育つ時は、正月にやって3月3日にやって5月の節句にやって、決まった日しか赤飯も食べられなかったんですよ。
- (委員1) 今はいつでも食べたいときに、コンビニだのなんだのあるから。みんなしてとにかく若きも老いもコンビニに行ってるつけよ。
- (部会長) どこに行っても日本中同じだということだもんね。とは言っても、コンビニがすごく多いかというところじゃないですよ。神社とか仏閣の方がコンビニより多いんですよ、全国的に見れば。お寺が7万7千、神社が8万5千あるんですが、コンビニは6万ぐらいです。だからいかに昔の神社とか仏閣というのがそれぞれの地域に密着していたか、それが徐々に今なくなってきているんです、はっきり言って。お寺さんも墓じまいとか寺じまいとかいう言葉が出てきてるんです。お寺がなくなって墓もなくなって、墓じまい寺じまいという言葉が出てきてる。まだ神社じゃないというのは出てきてないからそのうち神社もなくなってくる。いらぬ話をしてしまいましたね。
- (委員5) まとめるのが大変だなこりゃ。
- (部会長) あと30分ありますから。
- (委員1) 何から手をつけたらいいんだかね。
- (委員2) 衣食住でどれを選ぶかそれを1つ選んで何かを…

- (委員1) 衣食住の中からね。
- (委員2) 衣をやるか食をやるか。
- (委員5) 1つ選ぶの。
- (委員2) だって何かをやるっていうか実際にやって…
- (委員1) 1回にいっぱい選んでもやれないとね。1つのものを達成したら次の、衣食住の1つを達成したら次の食なり住なりしていくようにか。
- (委員5) まずほら、先立ちの人がどういう考え方で、まあ人を批判したりしないでみんなの意見を受け入れていくような、みんなを束ねられるような考え方を持つような研修を何回かやらなきゃなんないということがまず1つでしょ。
- (部会長) さっきそれは出ましたね。
- (委員5) そして、お年寄りであればこそ伝えていかなきゃならないことを、お年寄りの人たちが中心になってどう発表していくかとか伝えていくかとか、そこらへんがちょっと詰まってないけど、それをするにはどういうことをやればいいのか、そういうことを企画する何かを作らなきゃならないのか、そういうことだと思うんだ。その企画するところが決まれば、そこで衣食住の中から1つになるんだか2つになるんだかわかんないけど。どこに予算をつけてもらえばいいんだか、研修を企画するグループ、各地区からやればいいのかこのメンバーでやればいいのかわかんないけど。そういうふうな感じに思うけどな。
- (委員2) これは期間が1年だったけ、2年だったけ。
- (町民生活課長) 皆さんの任期は今年いっぱいですけども、一応部会としてはあと1回でまとめるような形になります。
- (部会長) そのあとは全体会があると思います。ですから、町に対してこういうことをしましよと提言できるところまでいけば、それを今度は町でどのように具体化するかということになると思いますので。だから今おっしゃったようなことが、老人であればこそ伝えられるもの、そういったものを今後どうやって伝承していくかということとか、あるいは、リーダーの足を引っ張らないようにみんな理解できるような研修会をしていきましょという話も出てきましたから。研修会となれば私たちではできないですよ。これは行政の方をお願いするしかない。老人であればこそ、老人の力を活用するということは、さっき言った名人、そういったことを関連付けてやっていくということも可能ですよね。だからあまり幅広くては困るから、2つか3つに絞って。
- (委員7) ちょっと質問。この部会があと1回で解散するっていうでしょ。そして提言して役場の方ではそれをどういうふうにするんですか。また新た

に、例えば郷土食の歴史でもいいですけど、そういうのをやってはどうか、じゃあまたそれをまとめていく人たちを役場の方ではどう集めて進めていく形を仮にとったとしても、提言した人たちがそこにいなくてまた新たに集めたりすると、私たちはそんなの提言した覚えはないってことになるじゃないですか。私が今ふと思ったのは、もしそうだとすれば、やっぱりこのいきいき部会の方たちがその後ある程度残るといふか、その人たちが提言をしてきた今までのプロセスがあるから、その人たちが残ってその人たちがそれぞれ、郷土食だったら郷土食の歴史についてまとめていきましょうという何人かを、だからここの方たちの何人かがリーダーになっていくような形をとらないと、提言して新たにまた募集してってなると二度手間といふか、私たちはそんなの提言した覚えはないっていうのを進めていかなきゃいけないとなると、その人たちは困るのではないかなとふと思ったんです。

(町民生活課長) そのことについて、まず1点目なんですけども、今回話し合ってもらいまして3回目にある程度のところをまとめていただきまして、それに伴って町の方では来年度予算に向けて皆さんの提言のあった部分について、可能な部分について予算措置をするということ考えているところです。先ほど研修会、ちょっと言えばあれですけど、リーダーを育成するために研修会が必要ではないかという意見もありましたけれども、それに対する研修会の予算を提案するというふうな形になります。

(委員7) 研修会の対象はどなたを考えているのか。

(町民生活課長) これからになりますけども、まあ高齢者ということになりますけども、皆さんでもいいでしょうし、全体部分になりますので、軽米町全体で希望する方を対象にするという考え方になります。これからの問題になってくるかと思えますけども。あと1点、皆さんは今年度末までの任期ということですけども、来年は来年でまた新しく、新しくと言ってもすべて変わるわけではないと思えます。また今回みたいに公募により選ばれるのではないかと思えますけども。

(委員2) この百人委員会というのはずっと続くのですか。

(町民生活課長) ずっと続くのです。今年度末で終わるということではない。

(委員1) ただ委員が変わっていくのでしょ。

(町民生活課長) 中には変わる場合もあるかと思えます。

(副部会長) そうすると完結した方がいいんですよね、任期分としては。じゃあ私たちは研修をした方がいいんじゃないかなというので1つと、軽米の文化伝統を継承していきたいものについての提言をして、まずそこでまとめて、次の人たちがこれについてまた続けてやりましょうとなればそれだ

- し、これはいけないんじゃないとなればそれで終わりという形で、次の人たちの考え方ということ、私たちとしてはこう思ったよということですね。
- (町民生活課長) メンバーが変わったりすればまたそれぞれ出てくるかと思えます。
- (委員1) 押し付けるわけにはいかないんだもんね。次の人たちがどういう考え方をするか。
- (副部長) まず私たちの意見をまとめて出してというところまでということですね。
- (町民生活課長) 全体会議でも2年間だけで結果を出すのはなかなか難しいのではないかという話もありましたけども。
- (部長) よその部会からも提言がされてくるわけですよ。
- (町民生活課長) そうです。
- (部長) それを全部実現させていくような予算化をしていく。
- (町民生活課長) そうですね、すべてというのはどうかですけども。
- (部長) 実際にどの程度動いてるかというのは今後の課題でしょうけどね。
- (町民生活課長) はい、できるものについてはできるだけ予算化するというところでやっています。
- (部長) さて、かなり具体化してきましたけれども、私たちのいきいき高齢者部会としては、高齢者としていきいきとしていくために町とどう関わっていくか、あるいはどのように時代にマッチした生活を送るか、それが非常に大切だよという前提に立って、さっき出たリーダー育成のための研修会をしていく、対象はこれから考えていくでしょうけど。それからちょっと他の部会とも関係するんですけど、文化の伝承とか老人のかつての知識、記憶を引き出してそれを活用していく方法、そういったことが私たちとしては今のところいいのかなというので出てきました。次回は本当の提言としてまとめていかなきゃならないと思うんですけど、今のようなことについて今度は絞った話し合いになっていけばいいのかなと思っています。
- (町民生活課長) そうですね、皆さんの意見を聞いてある程度の意見がまとまりましたら事務局の方で提言のとりまとめをして、部長、副部長にお示しするというような形になります。
- (部長) 具体的な話がけっこう出てきましたけど、あとなんでもいいですから出していただけませんか。18人いる中で半分しか来てないというのがちょっと残念ですけどね。リーダーというけども、あんまり大上段にかぶらずに私たちが今持っている力を発揮するために、その程度のところでリーダー性を発揮してもらおうということで考えていけばいいのかなと。
- (委員1) 高齢者として何をやったら楽しんでいけるか、年を取ったら何が一

番楽しみか、苦しみじゃなく楽しみを考えていった方が、楽しいことをやることにつながっていけば。

(部会長) 高齢者は高齢者なりの楽しみ方、自分たちの年齢にあったね。

(委員1) 年齢にあった楽しみ方というか、あとはなんというか自分たちだけで楽しんでいても若い人たちに負担かけるようなことでは大変だから、いい生き方をしているなどと思われるような事業というか、そういうのにつながられればいいのかなど。

(委員5) 本当はなんぼか活動して 500 円とか 300 円とかお金になればいい。それが一番いいんだけどね。

(委員1) 何をやったら 500 円とか 300 円取れるかな。例えば草履とかを作って 300 円で売るとか。昔私が嫁いでいったころ、駒板の集会場ではどこにもおじいさんおばあさんを寄せて、昔のわら細工を作らせたの。背負う時の背中あてというかそういったのを作る人もいれば、かつこべを作ったりいろんなのを作ってがらっと並べておいたの。それを壊すために焼いたりなんだりしたけど、全部おじいちゃんおばあちゃんの名前をつけて。全部そういうふうにして飾っておきましたよ。昔はそういう技術を持ってたからそういうふうなことをやってたけども、今軽米町全体でわら細工を作れる人を集めてもそういないんじゃないかな。

(部会長) 数えるぐらいしかいないんじゃないですか。

(委員2) 今シルバー人材センターでも正月には門松作ったり草履を作ったり、4、5回集まって作ってるんですけど、お正月のはみんなで飾ってあれするけども、草履が何足溜まっても使わないんですよ。だからやっぱり作ったら使えば楽しみがあるけど、ただぶら下げておくだけだから何足も溜まってくる。なんぼ体にいいと言ってもサンダルの方が使いやすい。

(委員5) 小学校にあげたら履かないかな、保育園とか幼稚園とか。

(委員2) 小さいのを作ってね。

(部会長) 小さな子どもに履かせればいいんでない。

(委員2) やっぱり小さいころから履いてないと。

(委員5) 使ってあげないとね。

(委員2) だから毎年作ってるんだけどもただ飾っておくだけ。門松は毎年捨てててというか新しく作るんだけども。でも興味がある人はシルバーじゃなくてもやりますよと言えば来ますつけね。

(部会長) シルバー人材センターでは毎年やっていますけどもね。そういったことを使える人はなかなかいなくなってきた。そういうのを伝えている人は生きがいがあるわけですよ、自分が活動してる場所がありますから。その分野ではリーダーだと思ってるわけだから。

(委員1) 門松でも作って売ればいいけどね。皆さん自分で作ったのを持ち帰るでしょ。

(委員2) そうやるには1日や2日では…、販売となれば何日間か集まって材料を買ってきてもらわなきゃならないでしょ。

(委員1) どこかの老人クラブで、苗づくりをして、苗をポットにやって販売してるところがあった。

(部会長) なかなか話が出てこなくなってしまった。具体的な話になってきましたけども。

(委員2) あと1回でまとめて役場の方に出すとなれば、3回目でみんなでただ集まっただけでは、その前に私たちだけで1回何人かでも集まってみて、という話でないとしっかりしたものできないと思います。

(委員1) あと1回というのは今年度中ですか。

(部会長) 10月か11月と言ってましたね。

(町民生活課長) そうです。10月の末辺りか、町の予算も12月には始まりますのでその前に。

(委員5) だいたい喋ってればこの人たちがまとめてくれるから。

(部会長) じゃあそれを期待して。さっきから出てるのは、簡単に言えば、いかに楽しんで生きるか、いきいきと生きる、そのためには必要とされている、期待されているという意識を持たせるようにする。そのために昔の記憶を引き出してもらうような活動をする場所を提供していったらどうかということが出てますし、リーダーを養成していくためには研修会が必要じゃないか。一生懸命やってる人はやってるんだけども、好きにやるんじゃないくて足を引っ張るようなことはしないような研修会をしましょう、理解を深めるような研修会にもっていきましょうというようなことが出てきました。今のところそういった方向でまとめなきゃならない。

(委員1) やっぱ行政の方でも予算つけてもらえるかどうかやってみないとわかんないけども、予算をつけてもらえるようになれば高齢者としてまちづくりにというか、少しはお手伝いできるようなことをしなきゃならないのかなと。お手伝いというかどんな形でお手伝いすれば予算…何もなければ少し予算をつけてもらえれば少しは行政のためにというかまちづくりのために高齢者として、高齢者の人たちがこういうふうなのをやったんだってよ、というようなことが1つぐらいあった方が、そういうのを1つぐらい決めた方がいいのかなと思います。これはリーダーのあれが決まってからの話だけどね。

(部会長) 次回まとめた時に、それをまとめていけば当然役場の方で予算化していかなきゃならないと思いますので。やっぱり自分たちが認められてる

ということで、町の発展までいなくても町の活性化にどう関わっているか、自分たちも関わっているんだよという気持ちを持たせていくためには、やっぱりある程度予算化してそういう活動の場を作っていかなきゃならない。

(委員1) 高齢者としての自己満足っていうか、そういうふうなのが1つでもあればいいのかなって。何もただ年寄りばかりいきいきとして元気でいれば医療の方がかからなくて助かるかもしれないけども、やっぱりどんな形にかしてまちづくりに少しでも頭を突っ込んで関わっていけば、高齢者としても認めてもらえるのかなと思ったり。

(部会長) そういう方向で持っていきましょうということですね。話が変わりますけど、この間役場から出てきた健康だよりですか、健康福祉課から出てるあれを見て、自殺率と件数が出てましたよね。圧倒的に男の方が自殺率が高いんですよね。それでふと思ったんですけども、なぜ男だろうかなど。だいたい会合やっても何をやっても男の人は出てこないでしょ、一般に。そうじゃないですか。

(委員1) そして女性だけの組織がいっぱいあるんだよ。例えば商工婦人部とか農協女性部とか。組織は女性だけいっぱい、若いのから老いたのから。中年の男性とか、老人クラブは年取ればあるでしょうけど、中年とか働き盛りのそういう組織がないから、男性は男性なりに組織を作ってお互いに悩みを打ち明けたり仕事のことを喋ったりすればいいのかな。でも女性にだけそういう組織があって働き盛りの男性にはそういう組織がないもの、どこを見ても。青年会というのはあったりするんでしょうけど。昔は4Hクラブとか中年の男性たちがやってたから。

(町民生活課長) 今もまだ4Hクラブはあるんだけども、青年会はないみたい。

(委員1) 青年会はなくなりました？

(町民生活課長) ないです。

(委員1) でも山内では息子たちが張り切って青年会だって夕べも盆踊りの反省会だってやっていたから。

(部会長) 学校がなくなって体育振興会だとかそういったのもなくなってきた。子ども会育成会はあるでしょう。ただ活動も不活発。

(委員1) 今育成会だってホテルに行きますよ、みんな親子で。すごいんだよ、八戸の方に行ったりしてここら辺ではやってないんだよ。

(部会長) それこそ年齢差ですね。そろそろ3時になりますけども、年に合ったような楽しみ方をしていくためにはどうしたらいいかということで、かなり方向性が具体化されてきましたので、次回はそのことについてもっと具体的に提言できるように話し合いを進めていければいいのかなと思いま

すけども、いかがでしょうか。

(委員1) 今日参加できない人たちは雨降りのあれがあって…

(町民生活課長) そうですね、台風の後片付けとかがあるのだと思います。

(委員5) よその部会もリーダー研修とかそういうのは入ってるの？

(町民生活課長) 議事録は他の分ももらってますけども…

(委員5) いや、どこでもリーダーが必要だと思うからさ。そういうのがないというのであればいいけども、あるとすればリーダー研修の中身を変える必要があるのかなと思ったりもしたけど。

(町民生活課長) ちょっと把握してなかったけれどもあんまりないと思います。

(委員5) ないのであればそれでいいんじゃない。

(委員1) 若い人はみんなリーダーなんだ。

(委員2) 結局みんなの部会が一緒に聴く…

(町民生活課長) そうです、今日の研修会はそういうふうな形で。

(部会長) 研修会の講演の場所は。

(町民生活課長) 農環センターです。

(部会長) 次回の進め方と開催日時についてということですが、皆さんからご意見いただきたいですが。日中がいいですか、夕方がいいですか。10月の末から11月の初旬になるそうです。日にちは決めれないと思いますので。

(委員2) 土日がいいか普通の日がいいか。

(部会長) 4月には夕方にやったんですよね、6時半から。どっちがいいかそこらへん皆さんからご意見いただきたい。

(委員1) 夕方となれば日が短くなる。

(部会長) 日中の方がいいですか。

(委員5) 女性もいるからな。ごはん準備もあるし。

(委員1) 夜帰る時あんまりいい気分でない、なんぼ車でも。

(部会長) じゃあ日中にしたいと思います。進め方もグループとかじゃなくて、今日のような形で具体化できるようなところまで持っていければいいのかなと思います。できれば今日よりもたくさん集まってほしいものだなと。

(町民生活課長) 日中、時間の方は。

(部会長) 何時ごろからですか。

(委員1) 今日ぐらいでいいんじゃない。

(部会長) 2時間ぐらいやるとすれば。

(委員) 1時半から。

(部会長) じゃあ13時30分からということでもよろしいですね。

(委員1) 何か急用ができればしかたないね。

(町民生活課長) それはしかたないことです。あとは土日と平日どちらがいいか。

(部会長) 土日がいいですか、平日がいいですか。今回は日曜日になりましたけど、たぶん講師先生の都合だと思いますのでね。役場の方々は平日の方がいいでしょう、当然。

(町民生活課長) どちらでもいいのです。

(委員1) 日曜日は休みたいんだ。

(部会長) 管理職の人たちは休みとれないんだから。

(委員5) どっちでもいいよ。

(部会長) 平日でいいんじゃないですか。

(町民生活課長) 日時が決まりましたら皆さんにお知らせしたいと思います。

(委員5) なるべく米刈りが終わってからの方がいい。そのころは終わると思うけどな。

(委員1) その黄色いシャツは国体の？職員の方たちが着るのですか。

(町民生活課長) 一応火曜日に着ることになってます。

(委員1) いつだか空色のそういう半袖のシャツを町長さんが着ててなんだろうと思ってたら、自殺予防だって。ただ着ただけじゃ自殺は防げないだろうと思ってね。

(町民生活課長) 意識を高めるということで。

(委員1) 慰めて歩くようなことしないと、ただシャツ着て役場にいたって自殺を防げないでしょ。

(部会長) だそうです。

(委員1) いろいろ情報提供しながら、あそこに困っている人がいるとか鬱の人がいるとなったら、訪ねて行って元気づけるようなことをするのならわかるけど、ただシャツ着て廊下歩いてたってって笑ってたの。

(委員5) このシャツは売ってると思うよ。

(委員1) 国体のかい？

(町民生活課長) もうそろそろ販売は終わると思います。

(部会長) あの、3時半からということですのでそろそろよろしいですか。あと25分ほどありますけども、このへんで今日の分は終わらせていただきたいと思います。私今日司会しててですね、耳が遠くてどこだり喋ったかもしれません。1人だけで喋ったりして申し訳ないなと思います。次は喋らないで黙ってますので。

(委員1) 会長さんに喋ってもらわないと私たちはもっと喋れない。

(部会長) 次は今日話し合ったことを頭に入れて、次何喋ろうかなと考えてきていただければ大変ありがたいと思います。